

守山市 発達支援センターだより

平成31年3月号（平成31年3月15日発行）

守山市発達支援センター（発達支援課）

守山市下之郷三丁目2番5号 すこやかセンター内

Tel: 077-582-1158 Fax: 077-581-1628

声かけの方法で子どもに伝える・子どもが変わる

ひとつの考え方にとらわれ過ぎてしまったり、考えが行き詰まったりしたときに、視点を変えると新たなものが見えてきたり、物事が解決したりすることがあります。短所が見方によっては長所になることもあります。ネガティブな視点をポジティブな視点に切り替えるときなど、視点や枠組みを変えて使う技術や考え方を「リフレーミング」と言います。

校庭や家庭で、子どもに指示や注意などを行っているのに、なかなか伝わらない、どうしたら伝わるのだろうか、というもどかしさを感じておられる場合は、声かけの方法を少し工夫すると伝わる可能性があります。

ポイントは、

- ・ 子どもに伝えたいこと、指示や注意は、具体的にかつ肯定的なことばで伝える、教える。
- ・ 同時に道具やジェスチャーなどを添えると、視覚情報としても伝わり、よりわかりやすくなる。
- ・ 今取り組むこと、今することを曖昧に伝えるのではなく、明確にして話す。

ことです。

[声かけの例]

Before	After	ポイント
廊下は走らない	廊下は歩く	やっていいことを伝える
ちょっと、あと少し、 だいたい	あと〇回、あと〇分 ここからここまで	数字や範囲が見えるように具体的に 伝える
何度言ったらわかるの？	どうしたらいいと思う？	手がかりなどを与えて、自分で適切 な行動を判断できるように導く
次は～～もできると いいね	〇〇できたね	次の課題、次にすることは言わない
ここが間違っているよ	ここまでできているね	できている方を見る
がんばってね	がんばっているね	がんばっていることを認めてほめる

上記はあくまでも例なので、子どもに合わせてどのように声かけをすればよいか考えてみてください。

注意していただきたいのは、他人と比べるのではなく、本人自身が以前と今でどれだけ変わってきたか、その過程や進歩を認めることです。本人は頑張っていて一生懸命していても、それを認められず、否定されると自己肯定感が下がる一方になってしまいます。

リフレーミングを続けていると、子どものよいところに目を向けやすくなっていきます。そして、子どもにわかりやすく伝えることで、発達障害のある子どもだけではなく、どんな子どもにもわかりやすく、受け入れやすくなります。

子どもに伝わらない、伝わりにくいのはなぜだろうか。そんなときは、「リフレーミング」で見方を変えてみると、解決の方法が見えてくるかもしれません。

校園へのお知らせ

平成 31 年 4 月 19 日（金）、4 月 22 日（月）に発達支援課主催で、個別支援計画、医療受診、発達支援事業、療育事業などの発達支援センターで実施している事業説明および各事業の手続き方法などについて、研修会（説明）を行います。

対象となる先生を限定しておりませんが、特別支援教育コーディネーターをはじめとした先生方の参加をお願いいたします。

なお、両日とも同じ内容となりますので、いずれかにご参加ください。

平成 31 年度当初に各校園に別途通知いたします。年度当初のお忙しい時期ですが、ご参加をお願いいたします。



お知らせ

平成 30 年 12 月 8 日（土）に開催した『発達障害を知ろう』講演会で、参加者から講師への質問で回答できなかった項目について、講師からの回答を市ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

市ホームページ：http://www.city.moriyama.lg.jp/hattatsu/hattatsushien_30kouenkai1.html

[質問回答の一部]

Q. 中学進学にあたり、女子グループや今後の友達づきあい、けじめが心配です。スマホは持たせていませんが、スマホの持ち方、使い方も含めて、今後どう対応していけばよいですか。

A. 部活の先輩との付き合い方はあらかじめご家庭でもお話をしておくとうよいと思います。思春期の同級生たちの感じ方や付き合い方も具体的にお話しないとお子さんによっては想像しにくいところかと思えます。先輩には敬語で話す、などといった小学校との違いもきっちり口に出して教えてあげてください。

スマホを与えるタイミングはご家庭によるとは思いますが、子どもに持たせるにあたっては、事前に使い方のルールを決め、それを守れない時の罰則も含めて予めしっかり約束をしておくこと、見てほしくないサイトへの対策（例：フィルタリング機能の活用）などの準備が必須です。メールはさまざまな理由から会話でのコミュニケーションに課題がある人にとっては便利な手立てですし、文字を読むことが苦手な人にとっては読み上げ機能を使うことでメールの内容が理解可能になるなど、支援ツールとしても活用できます。その他、GPS 機能は移動手段をサポートできますし、写真や動画は記憶を補助するのに有効です。このように付随する様々な機能を使いこなすことで、発達障害のある人の生活の質を高め、生活上の困難を改善することが期待できます。

トラブルに巻き込まれる可能性があるから持たせない、という発想ではなく、生活の質を高めるツールとして、その使い方を教えていく、という視点が重要かと考えます。その上で、携帯電話にまつわる闇の部分（例：出会い系サイトや掲示板、ブログ等を介してのトラブル）を避けるための適切な使用の仕方を教えていくのがよいと考えます。

Q. 本人が「みんなと違う」ことを意識して、こだわりすぎて非常に不安になっている場合、親としてどう説明すればよいのか教えてください。

A. みんなと全部一緒ということはあり得ないこと、みんな違うことなどを具体的に説明してみてもどうでしょうか。身長・体重といった体型やいろんな好み、趣味、みんなに言っていないだけでひそかに好きなもの…など。みんな実は一人ひとり違うんだよ、みんな一緒ということはないんだという視点をもたせてあげてください。

違うこと≠劣っていることではなく強みでもあることを、本人さんが得意なことを話題に伝えて貰ってもいいのではと思います。